

決議案第1号

**「核兵器禁止条約などを交渉する国際会議を来年開く」決議案  
に対し、日本政府が反対したことへ抗議する決議**

上記の議案を別紙のとおり提出します。

平成28年12月21日

羽曳野市議会

議長 松村尚子 殿

提出者

羽曳野市議会議員

若林信一

日和千賀子

吉田恭輔

笠原由美子

林義和

松井康夫

## 「核兵器禁止条約などを交渉する国際会議を来年開く」決議案に対し、 日本政府が反対したことへ抗議する決議

本年10月27日、軍縮問題を扱う国連第1委員会は、核兵器禁止条約などを交渉する国際会議を来年開くとした決議案を圧倒的多数で採択した。

これにより、「核兵器のない世界」へ国際社会は、画期的な一步を踏み出した。

国連総会では1996年以降、核兵器禁止条約の交渉開始を求める決議が毎年採択され、国際政治の焦点になってきている。今回の「決議案」は条約の交渉を始める会議を来年に開くと具体的な政治日程に踏み込んだところに特徴がある。

国連総会は昨年12月、核兵器の禁止・廃絶に関する作業部会の設置を決定し、その作業部会は本年8月、核兵器禁止条約の締結交渉を来年中に開始することを勧告した。これが今回の「決議案」の土台となっている。

これまでも生物兵器は1975年、化学兵器は1997年にそれぞれ禁止条約が発効され、それぞれの兵器が廃棄されてきた。来年の会議は「核兵器のない世界」への扉を開く歴史的な一步となりうるものである。

しかし、世界で唯一の被爆国である日本が、「決議案」に反対したことは、核兵器禁止・廃絶に向けた取り組みの世界的な潮流に逆行することになる。

日本政府がとった「決議案」の「反対」には、唯一の戦争被爆国として、厳しく批判し抗議する。

以上、決議する。

平成28年12月21日

大阪府羽曳野市議会

衆議院議長  
参議院議長  
内閣総理大臣  
内閣官房長官  
外務大臣

各あて